

寺に小僧こえであつたど。ある時、山さ栗ッこ拾いに行つたば、婆さんだ人でてきて、

「俺は、お前のオバだ。俺の家さ遊びに來い」

つたど。小僧ここんだ、寺さもどつて、おっさんさ、

「オバの家さ泊まりにえぐ」

つて言つたば、

「そりゃ、お前のオバでねぐ、鬼なんだどオ。えがねんだア」

と、おっさんにそう言われだしけど。

「あれは俺のオバだ。俺えぐ」

どて、しやにむにと言うど。したばおっさんが、

「したらしや、これ持つてえつて、おつかねぐなつた時、そご

さこれ一枚おいで、頼めエ」

ど、札三枚けでけたけど。

こんだ、そのオバだでエ人の家さ、泊まつたわけだア。そうし

たつきゃ、オバが夜中に大つきい口あげで、

「ニツコカツコついだがニイ」

とかねつけするもんだけど。小僧ここんだア、

「おがしもんだな。これだばきつと、鬼ばんばだア」

と思つたば、おつかねぐなつてきたべしや。

「婆ちゃ、婆ちゃ、俺ア、便所さえぎたくなつたア」

たつて、そう言つたど、そうしたば、

「んだら、俺つてえぐ」

つたけど。腰さナワつけでしや、小僧こどこ便所さつてえつたけずおんの。したば、小僧と便所さはつたば、外でその婆ばあが、ナワをつかめでいるど。

「まだだがア、小僧」

つて言えば、

「まだだア」

つて言うど。こんだ、つけられだナワほどいで、便所の柱さび

つとつないでな、札一枚おいで、どつとどつとど、逃げだど。

「まだだがア、小僧」

つて言えば、

「まだまだア」

つて、札こそう言うずおんの。それでしや、小僧こあ、どん

ん、どんどん逃げだもんだでおんの。そしたばしや、鬼婆ばあ

まだ、

「なんだ長尻だア、いづまでまげでるッ」

と、がりつとナワ引つぱつたば、便所の戸とれできて、小僧こ

えながつたど。

「あら、逃げでえつたな」

ど、その鬼婆ばこんだ、

「小僧までエ、小僧までエ」

ど、ほつてえつたんしど。ほつたばほつたば、小僧この後さす

ぐ来たど。小僧ここんだ、おつかねぐなつて、

「ここさ大つきな砂山ではれ」

つて、札こまいだど。

したばなあ、札まいだどさ、大つきな砂山できだど。砂山だ

おのしや、上がればぞろつとくずれで、ながながのほらえねもんだしけど。とうとう鬼婆ばしやな、その砂山さ上がつて、その砂

山越えで、まだ小僧こどこ、ほつてえつたでおの。

「までエ小僧。までエ小僧」

つて、ぼつてえつたど。まだ、小僧このそばまで来たべしや。

小僧こゝろ、

「ござ大つきな川ではれ」

つて、札こなげだど。大つきな川でぎだど。こんだ、逃げで逃

げで、お寺さ行きついだど。

「おっさん、鬼婆ばぼつてくる。なんとか助けでけれエ」

つたば、おっさんまだ、

「ほらほら、そういうもんだア。人の言うごと聞かねでエ」

「早く助けでけれつたア。いまぼわれで、かつがれるところだ

ア」

つたど。川の石でものは、てるてるでもんだべエ。でらつと滑

つてころびころび、その鬼婆ばあ、その川越えで来たすべつたあ。

「おっさん、おっさん。鬼婆ばそごまで来たつたア、助けでけ

れじゃ。おっさん、早くよ」

つたば、

「まず、ふんどしをしめで」

と言うど。

「おっさん、まず早くよ」

「まず着物をきて」

ど、おっさん、ながながやらねわけだア。

「おっさん、早くよ、おっさん」

「まず、帯しめで」

つて言うど。

「おっさん、早くよ。そごまで、鬼婆ば来たつたア」

「までエ、小僧……」

つて、鬼婆ばあまだ、叫ぶでおんの。さあ、おつかね、おつか

ねはア、

「そごさ来たつたよ。早く助けでけれじゃ。おっさん」

そう言つたば、おっさん、

「まず、草履はいでエ」

と言うど。それがらしゃ、おっさん、じゃりり、じゃりりと草

履はいで出はつてきて、戸を明けて、小僧こど中さひで、こん

だ、つづらさひで、つるしたど。そして、知らねふりしてえだば

その鬼婆ば来たじよんのな。

「おっさん、おっさん、俺の小僧来ねがつたがア」

「来ねエ、来ねエ」

そう言つたじよんの。

「たしかに来たはずだ。ここに履物あるもの。たしかに来たは

ずだア」

「来ねエ、来ねエ」

ど、じらつとしてそのおっさん、えだずおんのな。

「たしかに来たア。んだら、俺アここを破つてはつてえたつて

えがア」

「破つてはいりてエがら、はつたらえがべし、俺さだば来ねエ」

そう言つたずおんの。そしてしゃ、小僧えだべどて、ぐいっと

戸破つてはつてきたば、やっぱり小僧えなくて、おっさん、いろ

りばたさねまつてだずおんのな。

「どごさやつたア、小僧こどこ。なんだが、小僧のかまりする。

このつづらの中さ、はつてるべエ」

つて、鬼婆ばあ言うど。

「俺あ知らね。そのつづらの中は、仏さまの道具だア」

「んでねエ、小僧このかまりする。これあたしか、小僧だア。

おっさん、おっさん、俺どこ、タガツク、タガツク、タガツクと言えは、どうどうとおがってつづらさどぐんて、そう言ってくれ。シグヅク、シグヅク、シグヅクってひば、俺ア小さくなるんで、そう言ってくれ」

ど、鬼婆ばあ、おっさんさ頼んだしけど。おっさんこんだ、モチあぶってがら、

「タガツク、タガツク、タガツク」

って言っただ、いまにもつづらさどぐようになつたど。そして、おっさん、その言い方やめで、

「シグヅク、シグヅク、シグヅク」

と言っただ、だんだん小さくなつてしまつたど。ちっちゃくなつた鬼婆ばあど、あぶってだモチの間さはさんで、おっさん、食べでしまつたど。

そしたば、つづらの中で、小僧こあ、おっさんが鬼婆どこ食つたの、見でだべしゃ。

「あえ、よがったじゃ。おっさんよがったじゃ」
ど、喜んだど。